

おたんじょうびのありがとう

水谷 みずがひ
心煌 はるき

ほくは、おたんじょうびがだいすきです。へやのかざりつけをして、カレンダーをみて、あとなんにちかかぞえていると、とてもわくわくしてきます。ケーキのろうそくに、ひをつけてもらって、うたをうたって、

「おたんじょうびおめでとう。」

のあとおねがいごとをしてから、ひをけすときがいちばんすきです。かぞくが、みんなにこにことわらっていて、うれしいきもちでいっぱいになって、まいにちおたんじょうびならいいのになあとおもいます。

ほくのおかあさんは、かぞくのおたんじょうびがちかづくと、へやのかざりをいっしょにつくってくれたり、みんながたべたいといったりよりをつくって、テーブルにおさらをならべたり、ケーキをかんがえたり、とてもいそがしそうなのに、とてもたのしそうです。そして、ほくがおてつだいをしても、しなくても、おたんじょうびにはかならず、おめでとうといっしょに、ありがとうといえます。ほくが、

「どうしておかあさんは、おたんじょうびに、ありがとうっていうの。」

ときくと、おかあさんは

「おたんじょうびは、ありがとうのひなんだよ。」

と、わらっていいました。それから、

「おいわいするひとは、うまれてきてくれてありがとう。げんきでおおきくなってくれて、ありがとう。おいわいしてもらうひとは、じぶんがうまれてきたこと、みまもってくれているひとたちに、かんしゃしてありがとう。つていえる、すてきなひなんだよ。」

と、はなしてくれました。

ほくは、はじめてこのはなしをきいたときには、すこしむずかしくて、よくわからなかったけれど、すこしずつ、おたんじょうびのありがとうが、とてもたいせつだと、おもうようになりました。そして、おたんじょうびが、もっととくべつで、もっとたいすきなひになりました。

おかあさんが、おしえてくれた

「おたんじょうびおめでとう。おたんじょうびありがとう。」

という、ことばときもちを、ほくもたいせつにしていきたいです。